



工業、農業、体育と、いつも以上に様々なテーマで取材した今号では、機械油、飼料、汗……たくさんの匂いに触れました（男子校、野球部出身の私。部室に充満した汗と制汗剤の匂いがすごかったなあと、当時を思い出し、年頃に気を配っていたあれこれがついにて想起されました）。道中の新幹線では、時には弁当や香水の匂いが漂い、異国の言葉も耳にしました。観光シーズンの車中は、スーツ姿のビジネスマンだけでなく、服装も表情も多彩でした。そうした混雑が醸し出す「人いきれ」にも懐かしさを覚えました。

匂いは、オンラインで触れることができないものの1つです。紅茶に浸したマドレーヌが無味無臭だったら、こうして書き連ねたような連想も生まれていません。いつか記憶を呼び起こす呼び水になるかもしれない、そうした匂いの尊さを思った秋の取材でした。（河野）



電子ブック

VIEWnext

高校版は

電子ブックで閲覧できます

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ウェブサイト「VIEW next ONLINE」でご確認ください。

HOME → 学校教育情報誌『VIEW next』
→ 高校版バックナンバー

<https://view-next.benesse.jp/>

VIEWnext

高校版 2023年2月号

2月15日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2022年10月号へのご意見

教師は社会から多くを学ぶ必要がある

大学入試のみならず、現在の社会状況から学校教育全体を考え直さなければならぬと考えている。そうした中、10月号の特集に掲載されていた、高大接続改革を取り巻く環境変化の全体像は分かりやすく、今後を考える上で参考になった。大学入試だけにとらわれず、学校や教師が社会から多くを学ぶ必要性を強く感じた。 東京都立南多摩中等教育学校 徳武英人

生徒も教師も失敗から学びたい

10月号の特集では、高校での学びについて、大阪大学は「途中でつまずいたら、別のアプローチに挑戦し、よりよい解法を見つける」ことが、佐賀大学は「問題解決のためにどのような試行錯誤をし、失敗も含めてそこから何を学ぶか」が大事だとしていた。そうであるならば、京都府・京都市立堀川高校のように、生徒が失敗や間違いを認め、「分からない」と言い合える雰囲気があることが重要だろう。生徒も教師も、失敗しないようにするのではなく、失敗から学び、今後に活かしていくことが大切だと思う。 静岡県立下田高校南伊豆分校 谷野公彦

ますます重要となる外部人材の活用

10月号の「指導変革の軌跡」で紹介された、愛媛県立松山南高校が行っている卒業生の活用に大いに共感した。これまで多くの学校を視察したが、過疎地域で教育を円滑に進めるためには、外部人材の活用が不可欠だ。視察先の中には、教育業務支援員の雇用を促進したり、卒業生や退職した教師が学習・部活動を支援したりと、校務をうまく分担している学校があった。探究学習で行われる地域や企業、大学との連携によって、生徒が外部人材から学ぶことは、教科書で学ぶことだけでは得られないものであり、生徒に大きな刺激を与えることができる。外部人材の協力をいかに得て教育活動を進めていくかは、極めて大事である。

岐阜県立加茂農林高校 渡邊強矢

「じりつ」に向けて、「あたり前」を見直す素晴らしさ

10月号の「輝く学年団を訪ねて」で、岩手県立葛巻高校は、「過度に手をかけない指導」という学年の指導スタンスを年度初めに発信していたが、「放任」と誤解されないよう配慮している点が素晴らしかった。今までのあたり前を見直すことができる職場環境に感謝しつつ、教師が生徒とともに新しい試みに挑戦していることに頼もしさを感じたし、「自立・自律」をひらがなの「じりつ」にしている点もよかった。

東京都・私立東京農業大学第一高校 小堀健一

生徒に自信を持たせて終わる授業に共感

10月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で、大阪府立泉大津高校が行った読書活動を基にした国語の単元構成は、国語科の教師の私にとって、とても役に立った。特に、解答できなかった生徒に再度問いかけて、答えることができた自信を持たせてから授業を終えるといった展開は、自分の授業でも実践したい。 愛知県・豊橋市立豊橋高校 安田雪絵